編者はしがき

本書「生命篇　生命円相の真理(上)」の冒頭には、八つの「神示」が掲げられている。そもそも「神示」とはいかなるものであるのか。月刊誌『生長の家』誌(昭和二十六年七月号)において谷口雅春先生は「神示と霊示との区別」と題し、次のようにお説き下さっている。

「霊示と言うのは、ある個性霊魂が霊媒的素質のある人にかかって来て、話し、筆先を書き耳に霊言をきかせたりするのであるから、本人の意識のほかに別人格があらわれた形で其の啓示が出て来るのである。だからそれは二重人格式に出て来るのである。

……霊示にも最高級のものから低級のものに到るまで無数の段階があるのである。最高級の段階のものは伝える能作者はある階級の霊魂であるが、最高級の霊又は神(この辺になると神と最高級の霊との区別はハッキリと人間には区別出来ぬのである)の意志を受けて、その意志を伝えるのである。……かかる場合には『霊』が伝える言葉であっても神示である。形式の問題ではなく内容の問題である。……神示と霊示との区別はその文章に内在する神韻と格調の高さにある。その文章と読者に及ぼす結果によって判断されるのである。例えば『汝ら天地一切のものと和解せよ』と言う文章位は誰にも書けるのであるが、しかもこの一句に触れるとき冤ら冷水三斗の思いをして愕然として過去の迷夢より覚むる如き人々の多数あるは人間薬の単なる名文では出来難いのである。『果実を見てその樹の善悪を知れ』とイエスは言ったが、神示か霊示か潜在意識の迷妄の産物であるかはそれに触れる人が如何に魂を動かされるかの結果を見て判断するほかはないのである」

では谷口雅春先生に天降った神示とはどのようなものなのか。それは、谷口雅春先

生がご昇天間際に発せられた最後のお言葉「物質無し、肉体無し、病無し」に尽きる。この強烈な、世間の常識とは真っ向から対立する宣言は、「現象無、実相のみ独在」との大真理に裏打ちされて発せられている。谷口雅春先生に天降ったものが単なる「霊示」ではなく「神示」であるという証拠こそ、ここに明示されているように、あまたの人々がこれによって「魂を動かされ」、大いなる運命好転のきっかけをつかんだという無数の「結果」、特に治病体験の数々である。なぜ、『生命の實相』を読むだけで病が癒されるのか。その理由が本書でも具体的に明示される。

本書第一章では、先ず、私たちの固定観念である「病気の実在と医療・薬剤の効力」に対して、それが単なる思い込み（迷い）であることを痛論していく。第一章の章見出しの通り、「果して物質的治療は病気を征服し得たか」である。本章では、洋の東西を問わず、名医と言われる医学者の言葉、たとえば「医者は学校を出た当座は一病に対して二十種の新薬を備えて開業するが、開業三十年になると二十種の病気に一薬で押し通すようになる」とのアメリカの医学者の言葉などを紹介しながら、病気とは「心の

迷い」の別名であり、その迷いをいかに消失せしめていくかが大事であると説かれる。

これを川に譬えるならば、病気は川下、しかして川上は「心」ということになる。医学的な物質治療はあたかも川下を浄めるようなもので、なるほど、それによって一旦は良くなりはするが、川上まで遡っての治療でないために、また再発したり、別の病気となって川下に流れ着いてしまう。根本的な治癒とは、川上に遡って、その「心」を癒すことを指す。「名医」と呼ばれる人は、すべからく、この「心」の問題にまで穿ち入って、その心に「精神的光明の薬剤をのましてくれる」人の謂いに他ならないというわけである。谷口雅春先生によって、このように心と病気との関係性が医学的にも明らかにされたことは特筆に値するものと言える。そして、それを心の底から確信させるものこそ「現象無、実相のみ独在」の大真理である。

この天地を貫く「縦の大真理」を谷口雅春先生は本書の中で次のように説かれる。

「『生長の家』の説こうとする一大真理は、『実在する世界』は、実在する字宙は、完全円満、光明無限、生命無限、智慧無限、愛無限、従ってまた調和無限、供給無限、

自由無限であるところの一大生命力によって支えられ、その一大生命力の展開として一切の生命は存在に入ったという事実です。この一大生命力を『神』と称するのであります」(一四八頁)

本全集『生命の實相』には、この「縦の真理」と、私たちが生きているこの現実世界(現象世界)を光明化するための方法すなわち「横の真理」(心の法則)が、縦横無尽にマンダラ模様を織りなしているのである。

第二章以下、「業とケミカライゼーション」「和顔愛語などの善業を積むことの功徳」「潜在意識と病気との関係性」「失恋や事業の成功不成功」、さらには「霊魂と幽界・霊界」にまで話が及ぶ。そして「生長の家の聖典『生命の實相』は生きている人だけが読む本、病気が治るためばかりに読む本、現世における運命を好転させるためばかりに読む本だと思っていると間違いなのであります。これは死んで行く人にはより一層必要な本である」と語られるのである。

まことに、本全集は、谷口雅春先生が神示の天降りによって得た一大真理が圧倒的な説得力で説き尽くされている。単に病気に留まらず、幸福なる人生を切り開くには、自らの「実相」に目覚めるしかないのであり、その目覚めの度合い、悟りの程度に従って、身の周りの境遇・運命も変わってくる。それには、『生命の實相』をとにかく熟読・心読・味読することが最速、最短の道なのである。本書所収の「神示」には、「『生命の實相』はわが本体(編註・神のこと)であり、無形の『生命の實相』を形にあらわしたのが『生命の實相』の本である」とあるのだから。

最後に、本書を手にすることによって、谷口雅春先生の説かれた真理に目覚め、一人でも多くの方が神に祝福された人生を歩まれることを心から祈念する次第である。

平成二十五年三月吉日

谷口雅春著作編纂委員会